

市長だより

次女の夏休み、ペルセウス座流星群を観察するという宿題が出ました。星が最も多く流れる8月13日は逃しましたが、まだ流星群が見える期間内だったので、家族で星空を観察しようということになりました。武雄の夜空は星がとてもきれいですが、肝心の流れ星はなかなか見えません。そろそろ家に入ろうかと話していると、南の空に小さな流れ星。少し遅れて、北西の空にはゆっくりと大きな流れ星。願いごとをする余裕はありませんでしたが、思わぬ出現にみんなで子どものようにはしゃぎました。翌日は、娘2人と僕で星空観察。雲が多く流れ星は見えませんでしたが、家のガレージに3人で体育座りをして、たわいもない話をしながら夜空を眺めたのは、僕自身、思い出に残る時間でした。

星の本を子と読みおれば「月までは歩いて十年」
歩いてみたし（俵万智）

俵さんの子育ての経験を詠んだこの歌からは、息子さんの発想への驚きや親子の温もりが感じられます。なにかの目的（わが家の場合は流れ星を見ること）を達成できるのはもちろん嬉しいことですが、そこに至るまでの過程や、その時その瞬間を愛おしく大切にすることも、とても素晴らしい。自分の経験とこの歌を重ね合わせて、そう感じました。また今回、久々に夜空を眺めていると、福岡で働いていた頃を思い出しました。当時、大きな失敗で落ちこんでいる僕に、同僚が言いました。「銀河系から見たら小さなことですよ」。スケールの大きな言葉に、気持ちがずいぶん楽になった記憶があります。

今を大切に、懸命に生きること。そして、ときには大きなスケールで時間や空間に思いを馳せ、今を眺めてみること。これは、まちづくりはもちろん、人生を豊かに生きていく秘訣の一つだと思っています。

武雄市長　小松　政